

RAINBOW

No. 104

松江市教育委員会学校教育課 松江市学校図書館支援センター TEL:55-5073 FAX:55-5251
<http://www1.city.matsue.shimane.jp/kyouiku/gakkou/>

新年度が始まり、2か月がたちました。図書館オリエンテーションや日常の声掛けで、子どもたちは上手に図書館を利用していることと思います。

6月11日は「学校図書館の日」（全国学校図書館協議会制定）です。また、第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（文部科学省）が策定され、「不読率の低減」「多様な子どもたちの読書機会の確保」「デジタル社会に対応した読書環境の整備」「子どもの視点に立った読書活動の推進」が基本的方針となっています。これらをもとに、学校図書館運営組織や図書館担当で自校の学校図書館のビジョンについて意見交換する機会を設けるといいですね。



令和5年度 松江市学校図書館運営説明会を開催しました 4月19日(水)・21日(金) 於:松江市市民活動センター

学校図書館運営の円滑化を図るとともに、管理職と司書教諭、学校図書館担当教員、学校司書の連携を一層強化し学校図書館活用教育を充実させることを目的に、学校図書館運営説明会を開催しました。

松江市が推進する学校図書館活用教育や学校図書館支援センター事業、松江市立図書館の学校支援について、管理職と司書教諭、図書館担当教員、学校司書、計140名が参加し共通理解を図りました。説明した内容を抜粋してお伝えします。

=松江市教育大綱=■基本理念■

DREAMS from MATSUE

～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～

<基本方針Ⅰ> 生きる力を持った子どもたちの育成

2 確かな学力の育成

- ・「松江市保幼小接続カリキュラム」の実践
- ・ICT機器等を活用した、個に応じたきめ細やかな指導を充実
- ・教員の指導力向上など学力向上対策を推進
- ・家庭学習の充実
- ・小学校高学年において教科担任制の導入
- ・学校図書館活用教育の充実

松江市では、昨年度「松江市教育大綱」を策定し、基本理念を「DREAMS FROM MATSUE」～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～として、市としての重点的な取組を示しました。

基本方針Ⅰの「生きる力を持った子供たちの育成」の中で、確かな学力の育成のための取組として、「学校図書館活用教育の充実」を挙げています。

学校図書館支援センターの取組 3つの「つなぐ」

- ① 学びをつなぐ
 - ・教科等横断的、系統的、継続的な学びをつなぐ
 - ➡「学び方指導体系表」
- ② 人をつなぐ
 - ・司書教諭や学校司書の専門性を高め、関係する人々をつなぐ。
- ③ 情報をつなぐ
 - ・物流システム、各校の取組の情報をつなぐ

支援センターの取組を、「つなぐ」をキーワードに紹介します。

学びをつなげる拠りどころとなる「学び方指導体系表」の作成や活用の促進をしています。

図書館の運営や活用教育についての指導助言や研修会の開催など、関係する人々をつなぐ支援を行っています。

図書館資料を生かすため、「物流システム」を構築したり、各校の取組についての情報共有化をはかったりし、情報をつなぐ仕組みづくりを行っています。

①学びをつなぐ 【学校図書館活用教育】松江市小中一貫基本カリキュラム

「学び方指導體系表」～子どもたちの情報リテラシーを育てる

知る 見つける つかむ まとめる 伝える

小学1年→ 前期 中期 後期 →中学3年

探究的な学習のプロセス

学年	前期	中期	後期
1年
2年
3年
4年
5年
6年
7年
8年
9年

学びをつなぐ方策として、縦に探究的な学習のプロセス、横には小1から中3までを並べ、9年間のうち各教科等のどこでどのような情報スキルが関わるかを示した「松江市学び方指導體系表」を作成しています。体系表を活用することで、発達段階に応じながら情報リテラシーを育成していくことができます。体系表には松江市が採択している教科書で使用している用語を載せていますので、容易に活用できることも特徴です。

②人をつなぐ

R5 学校訪問計画

R5 研修計画

- 学校訪問①
新規学校司書配置校、異動のあった学校司書配置校
- 学校訪問②
島根県学校図書館活用教育研究事業 研究指定校
- 申請訪問 希望する学校
環境整備、校内研修、授業実践、学校司書業等の相談対応

- 学校図書館運営説明会
- 学校図書館活用研修
- 司書教諭スキルアップ研修
- 学校図書館活用教育に係るブロック別研修
①運営研修 ②授業研修
- 新規雇用学校司書研修
- 学校司書フォローアップ研修

人をつなぐ方策として、学校訪問や研修会を実施します。

学校訪問では、各学校図書館の運営状況を把握し、活用教育の推進や校内での連携について、助言を行います。司書教諭や学校司書と一緒に研修する機会を設け、両者の連携や学園・ブロックでの連携ができるように計画しています。

③情報をつなぐ

物流システム（蔵書の相互活用）

支援センタースタッフによる資料依頼対応

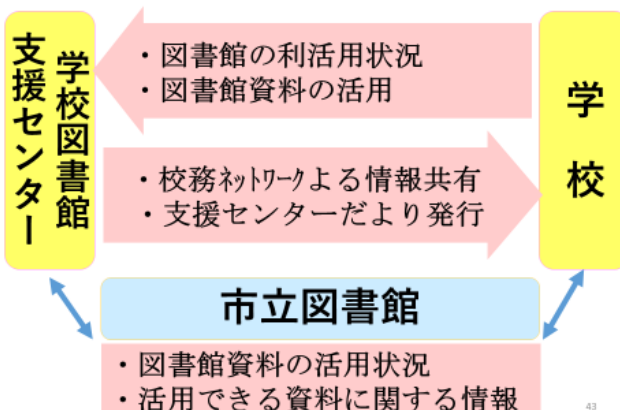


- ◎学校司書が子どもたちと関わり、教職員と協働して学校図書館活用教育に携わる時間を確保する。
- ◎市内各館の資料資源を共有して資料支援に対する情報の共有化を図る。

情報をつなぐ方策として、学校と市立図書館の図書館資料を貸し借りするシステムを構築しています。市立図書館に支援センタースタッフ1名が常駐して、学校から依頼があった資料を準備したり、学校での資料活用状況を把握し資料相談にのったりしています。また、相互活用がしやすいように資料の運搬を業者に委託しています。

③情報をつなぐ

学校図書館に関する情報の共有化



情報をつなぐもうひとつの方策として、学校図書館に関する情報の共有化を図っています。

学校図書館の運営や活用教育、図書館資料の活用について、各校の取組や市立図書館からの資料情報を支援センターで集約し、校務ネットワークや支援センターだよりで情報提供をしています。

この説明会は、管理職、司書教諭、図書館担当教員、学校司書が同席する会ですので、説明を聞きながら3者で自校の状況等について話し合う時間を設けました。校内の連携をより意識してもらうことができたように思います。支援センターと学校、市立図書館が協力し合ってチーム松江として、学校図書館活用教育に取り組んでいく機運を高める機会となりました。



説明会の様子

令和5年度 学校司書フォローアップ研修を行いました

5月23日(火)15:00～16:30 於:松江市立中央小学校

松江市における勤務年数1年目から3年目まで(4、5年目は希望者)の学校司書を対象に、学校司書としての資質・能力の向上を図ることをねらいとした研修を行いました。8名の学校司書が参加し研鑽を積みました。

今年度は、松江市立中央小学校の図書館を会場に、学校司書の石原香織さんから中央小学校の図書館の取組について紹介をしていただきました。

「学校司書5年目です。何もわからないところから学校司書としてスタートしましたが、自分なりに工夫していることをお伝えできたらと思います。」という、石原学校司書の自己紹介で和やかな雰囲気の中研修会が始まりました。読書センターや学習センター、情報センターとして取り組んでいることや心がけていることの事例紹介をしていただきました。(※は、他校ではどのようにしているか知りたいこと。)

● 読書センター	<ul style="list-style-type: none">・本の貸出時や図書の時間などの子どもたちのつぶやきや会話を拾い、個々に応じた読書支援を心がけている。・発達段階に応じた本を読んでほしいと思い、おすすめの本として必読書を設定し、貸し出しを促進している。※必読書を読んだり、借りたりすることが、子どもたちへの押し付けや負担にならないようにするためにはどうしたら良いか。・教員に向けて、新着図書や読書活動や授業に活用できそうな本を職員室版図書館だよりに掲載したり、学校司書の机の上に置いたりして紹介している。
● 学習センター	<ul style="list-style-type: none">・授業者や司書教諭との打ち合わせの記録を細かくとり、授業支援に役立てている。・提供した資料がどのように活用されているか、子どもたちが情報収集できているかなどを把握するために、なるべく授業を見るようにしている。※他館から借りた資料をうまく管理する方法が知りたい。
● 情報センター	<ul style="list-style-type: none">・図書館オリエンテーションや授業で学習した図書館の利用の仕方や本の分類、図鑑・辞典・事典の使い方などを、図書館イベントのクイズやチャレンジの項目に入れ、既習したことが身につくように工夫している。・児童の成果物を図書館に置き、言語活動のゴールがイメージできるようにしている。

研修の途中では、石原学校司書への質問や参加者が交流する時間を設けました。自校の取組や工夫点、課題点などを共有することができました。

学校図書館の運営は、管理職や司書教諭、図書館担当教員、学校司書を中心に学校全体で考えていくことが大切です。そして、読書活動や学習に活用する図書館資料や学校司書業務にちょっとした工夫を加えるためには、同じ職種同士の横の連携も欠かせません。参加者がこの研修で、顔を合わせたことが連携を強めるきっかけにもなったと思います。



石原学校司書の発表の様子

参加者の感想

- ・読書量を増やす手立てとして、目標冊数や必読書を設定することもあるが、低・中学年は張り切って取り組んでいるが、高学年は難しいのが実態である。冊数にとらわれずに本との出会いのきっかけをどう作るかを課題に感じている。今回紹介されたことを参考にしながら「本って楽しい」と思う子どもが一人でも増えるように、司書教諭と相談しながらアイデアを練っていきたいと思った。
- ・職員室版の図書館だよりに新着図書の表紙を載せたり、関連する教科を書くということを自校でもしてみたいと思った。
- ・研修会場が図書館だったので、話されたことを見て確かめながら聞くことができ、とても分かりやすかった。

学校司書の活動や気づき 令和5年4月の学校司書業務報告書より

(各校の活動について、学校間で情報交換ができるように学校番号(運営説明会資料名簿番号)を文末に表記しています。)

- 図書館オリエンテーションについて
 - ・3年生(小学校)以上の図書館オリエンテーションでは、前学年の学びを振り返りながら、分類や配架について説明した。記号の意味を覚えていない子や、分類ごとの棚の場所を把握していない子もいて、繰り返し指導することの大切さを感じた。どの学年も、子どもたちは興味深く聞き、「そうだったのか。初めて知った。」「だんだん分類のことが分かってきたぞ。」とつぶやく子や、「これで、本が早く探せるようになると思います。」と発言する子がいた。また、図書委員会では、「分類のクイズも作ってみたいらどうでしょう。みんな本を探したり返したりするのが上手になると思います。…」と相談に来る子もいた。(7)
 - ・図書館オリエンテーションを、担任と学校司書で行った。国語の教科書にある「図書館へ行こう」をもとに、学年に応じて分類法を説明し、ワークシートやラベルを手掛かりにした本探しなどの活動を取り入れて学習が深まるようにした。1年生(小学校)は初めて自分の「貸し出しカード」で絵本を借り、とても嬉しそうであった。1～6年生ひとりひとりが心に残る本と出会うように働きかけていきたいと思う。(13)
- 読書支援について
 - ・おすすめの本の内容についての見直しを行った。教科書掲載の物語や古典的な名作の他に、現代的な問題を扱った物語やキャリア教育関係、環境問題、郷土に関心を持つための本などを幅広く入れた。高学年では自らに合った本を自分で選ぶことができるようになってほしいとの願いから、50冊の本から選ぶ方式で行っているが、それぞれのレベルに合わせるができるよう、内容を考えて入れ替えを行った。子ども達からは「自分はまず絵本から読むことにした」「この本はもう読んだのでこっちにした」などの声がきかれ、個に合わせた読書支援の一つになったのではないかと感じている。(1)
- 校内の連携について
 - ・年度初めに、司書教諭と運営面の細かいところまで打ち合わせを行った。校内に周知し、共通理解をすることが出来たので、先生方に声を掛けやすくなった。図書館は役に立つと思ってもらえるように取り組んでいきたい。(19)
 - ・運営説明会時に学校ごとに話し合う時間が設けられていた。その際、「図書館活用が見える化できるといい」の一言がきっかけとなり、今年度から図書館だよりを発行することにした。図書館だよりをとおして、生徒や教職員と図書館を少しでもつなげたいと思った。(33)



松江市立図書館 配本室より

(配本室には学校図書館支援センタースタッフが常駐し、各校からの資料依頼やレファレンスに対応しています。)

学校図書館活用図書(学図)について 令和4年度末に学図の資料を追加しました。

- 『みんなが過ごしやすい町のバリアフリー 調べよう!』1～5巻 小峰書店
- 『理系の職場』1～4巻 同友館
- 『こども手に職図鑑 AIに取って代わられない仕事100』 誠文堂新光社
- 『教科書にのってるどうぶつのお赤ちゃん』1～6巻 偕成社
- 『SDGsでかんがえよう地球のごみ問題』1～3巻 童心社
- 『イネ・米・ごはん大百科』1～6巻 ポプラ社
- 『日本の古典を読む』1～20巻 小学館

上記の内容は追加した資料の一部です。松江市HPに学校図書館用貸出資料リストを掲載しています。

* 資料リスト

松江市HP > 子育て・教育 > 教育委員会 > 学校図書館支援センター > 松江市立図書館との連携
https://www.city.matsue.lg.jp/kosodate_kyoiku/kyoikuiinkai/5/5956.html



令和5年6月1日現在